

令和6年度 第3学期始業式 式辞

令和7年、2025年が始まりました。そして、令和6年度の仕上げの3学期のスタートです。何回も言います。少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれぬ。

今年は、十二支で言うと巳年、もう少し詳しく、十干と十二支とを組み合わせた言い方では、「甲乙つけがたい」の「乙（おつ）」の字に「巳」で「きのとみ」「乙巳（いつし）」の年です。「乙巳の変（645年）」の「乙巳」ですね。十干十二支の組み合わせを「干支（かんし）」、一般的には「えと」と言いますが、これは、暦や時間、方位を表すのに用いられます。十干は甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の順番で、十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の順番でまわるので、その組み合わせは60通りとなります。

60歳になる年に、自分の生まれた年の干支が再びまわってくるので、「還暦」というということは、皆さんも知っていると思います。日本史や世界史の出来事には、「壬申の乱（672年）」とか「戊辰戦争（1868年）」とか「辛亥革命（1911年）」などのように、干支がついているものも数多くあります。ちなみに、西暦年の一の位の数字は、十干からすぐに求められます。繰り返しになりますが、今年は「乙巳（いつし）」で「乙」「きのと」の年、一の位の数字は2025年の「5」、「乙巳の変」は645年、去年は十二支で言うと辰年で、十干では「乙」の前年ですから「甲」「きのえ」の年、十干十二支では「甲辰（こうしん きのえたつ）」の年で、2024年、一の位の数字は「4」、朝鮮で起きた「東学党の乱」とも呼ばれる「甲午農民戦争」は、「甲」「きのえ」の年の出来事ですから、1894年で、一の位の数字は当然「4」です。その他にも、甲子園球場は1924年の「甲子（こうし かっし）」「きのえね」の年に完成したことからその名がつけられています。来年は、甲乙の次ですから、「丙」「ひのえ」で午年、「丙午（へいご ひのえうま）」の年で2026年、一の位の数字は「6」です。

さて、今年の「乙巳（きのとみ）」ですが、「乙（きのと）」は、十干の2番目で、樹木の「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びたり横へと広がったりする意味を持っています。また「巳（み・へび）」は、神様の使いとして大切

にされてきた動物で、脱皮を繰り返し成長することから、進化・再生のエネルギーの象徴とされています。

したがって、今年、乙巳（きのとみ）の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年という感じでしょうか。

チャールズ・ダーウィンの名言と言われるものの中に「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるわけでもない。唯一生き残るのは、変化に対応できるものである。」というものもあります。

自分の中にある「頑なな心」を自覚して、柔軟な心を持つよう意識すれば、大いに成長できるのではないかと思います。

自分自身の飛躍のために、ぜひ、意識してみてください。

先ほども言いましたが、3学期は、令和6年度の仕上げの学期です。3年生にとっては、高校生活の仕上げでもあります。アンテナを高く張って、自分自身や周囲の変化に敏感になりましょう。そして、困っている人がいたら手を差し伸べる人になりましょう。いつものことですが、一人ひとりのいのち、健康を大切にしましょう。

皆さんの3学期が充実したものになることを期待して、式辞といたします。